

東京湾の干潟をフィールドに、人に恵みをもたらす「水産有用種」、多様性の「シンボル種」、多様性の基盤となる「生態系エンジニア」をキーワードに沿岸生態系の研究を進めています。



生態系エンジニア

ハビタットの環境を改変することで、他の生物の分布に大きな影響を与える生物を生態系エンジニアと呼びます。干潟には多くの生態系エンジニアがあり、以下の生物種を研究対象にしています。



左上 垂直護岸の
ヤッコカンザシの
生物礁

右上 干潟を耕す
外来種ホンビノス
ガイ



左中 アカエイの
食痕

左下 巣穴を掘る
ヤマトオサガニ

アサリ

かつて豊漁だった東京湾のアサリ、1960年以降個体群の減少が止まりません。その要因を明らかにするため、おもに二つの研究に取り組んでいます。

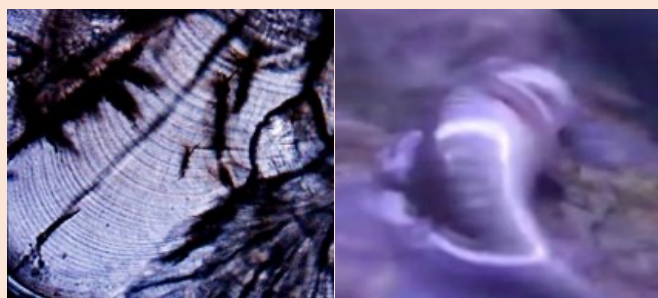
- ・ 東京湾のアサリ個体群の長期変動
- ・ 青潮（貧酸素）のアサリへの影響



左 青潮で大量斃死した干潟の二枚貝
右 標識（PITタグ）をつけたアサリ稚貝

トビハゼ

東京湾湾奥に残された干潟には国内最北限のトビハゼ個体群が見られます。トビハゼは水陸両性という変わった生態を持っています。北限の環境条件がトビハゼにどのような制限をもたらしているかを、成長、乾燥耐性、逃避をキーワードに研究しています。



左 トビハゼ稚魚の耳石日周輪
右 横転して皮膚を湿らせるトビハゼ